

梅窓院通信

春彼岸号

No.69
2014/03/01

青山



昨年末、山門脇に新たに建立された無礙光塔の開眼式。無礙光塔はペットの納骨供養塔。本号で特集しています。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



平成二十六年の幕開けも、恒例行事となりつつある法要、修正会で始まりました。修正会是一年の社会平和と皆さんの幸福を祈願する法要です。

昨年は日本はもちろん、世界的な規模での天候不順で世界各地が色々な自然災害に見舞われました。言われ続けてきた温暖化で地球という「生き物」がその様相を大きく変化させているのでしょうか。

こうした中、本年の修正会は今までで一番多くのお檀家様にお参り頂きました。導師を務めながら、平穏な普通の日々が続くことをいつも強く願った次第です。

さて、昨年末に山門脇に建立したペットの永代供養塔、無礙光塔ですが、多くの方の大切なペットが納骨供養され始めました。

無礙光塔への納骨供養法要では梅窓院の尼僧だけで法要を執り行うようにしています。女性の読経は男性の読経に比べて穏やかでやさしく、また声に透明感があります。そうした透き通った読経が響く中、大切にされてこられたペットの納骨供養を執り行っています。

続いて、恒例の団体参拝のご案内です。本年は五月二十六、二十七日の一泊二日で福岡の久留米にある善導寺を訪れます。

善導寺は浄土宗を開宗した法然上人の一番弟子、聖光上人が開いたお寺で、浄土宗の大本山の一つです。現在の法主は梅窓院と同じ東京教区城西組、赤坂浄土寺の前住職、
台下でいらつしやいます。

だいぶ前にも団参で訪れていますが、今回は宿を湯布院にとることにしました。人気の温泉宿で日頃の疲れを癒して頂けます。

善導寺へ向かう途中では太宰府天満宮にお参り、帰る日には別府に寄って地獄めぐりをする予定です。

詳細は改めてお知らせ致しますが、参拝、宿、食事とどれをとっても充実した団体参拝に致しますので、どうぞご参加下さい。

法話 仏教歳時風物詩 (25)

弥生—花見月・夢見月

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

一 月春分の日を中心として一週間の春季彼岸会の頃から、四月八日の仏生会・花祭の頃まで、彼岸桜の先がけにはじまって染井吉野や山桜まで、日本列島は桜花満開、いわゆるお花見の季節である。もちろん日本列島は南北に長いので、三月中旬、いや最近では三月上旬からはじまる桜前線の北上は、五月のゴールデンウィークの頃も青森・北海道へと花便りを届けている。

歌や句の世界では、花といえは桜。今回は桜の花をめぐって、早咲きの一輪のかわいさから、満開の爛漫たる美しさや散り際のせつなさまで、桜にまつわる仏教俳句を鑑賞して、桜花の中の仏心を見つめたい。

ところで旧暦三月の月名の弥生はよく知られるところであるが、ほかに、花月・桜月・花見月・花津月・早花咲月(さはなさき月)などの呼称はいずれも桜の花にちなんだ美しい月名である。この中、花月は「かげつ」と読めば漢語における三月の異称ということになる。

初花や法事辰りを多摩河原 (碧童)
初ざくら御室の御門ひらきけり (蝶夢)

蝶夢和尚は、天明期の京都俳壇に重きをなした人で、浄土宗白院の住職

も務めた。御室仁和寺門前での一句。

小沢碧童は、河東碧梧桐の門人で、一時自由律に転じたが、関東大震災を契機として定型句に帰った人である。

観音の薨見やりつ花の雲 (芭蕉)
観音の大悲の桜咲きにけり (子規)

松尾芭蕉と正岡子規の浅草観音に寄せる句である。芭蕉には、「花の雲鐘は上野か浅草か」の有名な句がある。

寺々を通りぬけけり花ざかり (白雄)
大なる二つの門や花の寺 (素十)

寺の門、寺の塀に桜花が咲きほこるありさまがよく伝わってくる。加舎白雄は江戸の天明期の中興俳諧を担った人であり、近代の意識を先取した感傷性を持った人である。高野素十は虚子門の四Sの一人であり、水原秋桜子、阿波野青歌・山口誓子とともに、「東に秋素の二Sあり、西に青誓の二Sあり」という四人のイニシャルをもって讃えられている。

更にまた法の花かれ普賢像 (宗因)
夫婦墓牡丹ざくらの紅深く (秋溪子)

西山宗因の句は、普賢像桜を詠んだものであるが、その花びらに仏法の教えの触れを見ている。岸秋溪子の句は、文字通り仲のよい夫婦を愛でる牡丹桜の真紅に心を留めたのである。

花散りてまた閑かなり園城寺 (鬼貫)
東大寺湯屋の空ゆく落花かな (魚目)

上島鬼貫の句は、寺門派三井寺園城寺での一句。宇佐美魚目は、橋本鶏二に師事して、その主宰誌『年輪』などで活躍した人。湯殿の窓から見える空をこぼれ散る花びらを見つめて、これはまた西東三鬼の「大仏殿いでて桜にあたたまる」とは趣きを異にした句想がある。

ここまで、仏教にかかわるもろもろを込めた桜にまつわる仏教俳句によって点綴してきたが、堂塔伽藍の立たずまいと桜花との似合い・つり合い、相性のよさのようなものがよく窺えるのである。

さて花見月の三月弥生の旧暦の異称の中に、別に夢見月がある。卒業式の季節である現今の三月に、卒業生たちの明るく輝かしい、新しい出発の夢をふくらませて、この旧暦の月名である夢見月を記し加えて結びたい。

(大正大学学長)

一月の行事報告

修正会とお雑煮の振舞いが無事終了致しました。元旦から沢山の方がお参り下さいました。



今年で5回目となる修正会法要。



修正会の後におせちとお雑煮を楽しむ参拝者の皆さん。

訂正とお詫びのお知らせ：前号本欄の、先代及び先々代室23回忌法要と十夜法要・芋煮会の写真に入れ違いがございました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

春彼岸法要

三月二十日(金)



プロフィール

林家正雀 師匠

昭和二十六年、山梨県大月市生まれ。昭和四十九年に林家彦六師匠に入門。昭和五十三年に二ツ目に進み、正雀と改める。昭和五十八年、真打に昇進し、現在も幅広く活躍中。

彼岸とは

お釈迦様が大切にされた中道、どちらにも偏らない、という考え方から春と秋の昼と夜の長さが同じになる日を彼岸の中日として、その前後三日間ずつを悟りを得るための修行を行う彼岸としました。同時に彼岸である極楽浄土にいらつしやるご先祖のお墓詣りをする期間にもなっています。

彼岸寄席

午後一時～地下二階祖師堂

春彼岸法要

午後二時～地下二階祖師堂

塔婆申込み方法

同封のがきを使い三月十日(月)必着でお申込み下さい。

塔婆回向料は一本 七千円とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行でのお振込みはできません。)

お檀家様へお願い

3月18日～24日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。

※観音堂エントランスにてお呈茶しておりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

春彼岸によせて

昨年、梅窓院山門脇においてお檀家の方々のご要望を受けまして、ペット供養塔を建立し、十二月二十二日秋晴れの中、恭しく開眼法要を執り行いました。

私の自坊は秋田県横手市という田舎にございます。その自坊ではささやかなものではございますが、寺庭婦人であり母のたつての希望もあり、「どうぶつのお墓」を建立し供養してまいりました。お寺というのは不思議なもので、昔から野良猫が通つてきたり住み着いたりということは珍しいことではないと思います。自坊でも通つてきたり人から譲られたり拾つてきたりと、猫やら犬やらハムスターやらと、もうかれこれ二十四匹以上にもなりましょうか。現在も保護した野良猫八匹とチワワ二匹と、家族仲良く暮らしております。

長らく動物と暮らしておりますと、幾度となく別れがございました。自坊は大通り沿いに面していることもあり、目と鼻の先で野良猫が亡くなっていることはしょうちゅうでした。中には、見知った近所の飼い猫や、面倒を見ていた通い猫の時もございました。そのような時、母は知る知らずに関わらず涙を流し、せめてもと食事を供え、柔らかいところに寝かせ、二晩中付き添つて供養をしておりました。私の目にはその母の姿が、隔てなく慈しみ悲しむその姿が、温かな観音様のように感じられたものです。

亡き人の供養、亡き動物の供養には様々な形、考え方があると存じます。心の持ちようもそれぞれでしょう。しかし、生前を偲んで出来得る限りのことをしたいという気持ちはお釈迦様の時代以前から不変のものではないでしょうか。お彼岸の折、一切衆生、隔てない大いなる生命と感じつつ手を合わせ、御念仏をお称えいたしましょう。

(法務部)

春彼岸物産展

3月21日・22日
観音堂

今年も郡上八幡の特産品が梅窓院にやってきます。この機会にぜひお求め下さい。



かつての飼い犬は番犬で、その役目は侵入者から家を守ることでした。屋外の犬小屋が寝床になり、残り物のごはんや味噌汁などは特別な餌でした。そしてそのお墓は庭の片隅や裏山で、家族が掘った穴に埋められ、木切れの墓標が立てられていました。
今のペットブームから見るとまさに隔世の感です。
今のペットは家族の一員、彼ら、彼女らに特別な衣食住が用意される時代になりました。そしてそのお墓も変わってきています。
ペットを飼っている梅窓院僧侶と職員にペットの理想的な供養を伺いました。

山門脇に新たに建立された無礙光塔。

むげこうとう 無礙光塔(ペット納骨供養塔)建立記念座談会

「理想的なペット供養を考える」

司会 今日はお集まり頂き、ありがとうございます。
ございました。

さっそくですが、梅窓院に新しくペットの納骨供養塔、無礙光塔が完成しました。森さんが運営の責任者と伺っていますが。

森 はい、私は梅窓院の墓苑の案内業務に携わっていますが、ペットの納骨供養塔にも携わります。

司会 ご自身のペットは。

森 柴犬を何匹か飼ってきました。亡くなると、雑木林に埋葬したり、役所で火葬し市営墓地のペット墓に埋葬してきました。今は東日本大震災の被災犬、ポメラニアンを飼っていますが、このワンコがいなくなることを想像しただけで泣けてきます。

司会 津村上人もペット歴が長く、多いと聞いていますが。

津村 はい、生まれた時からペットがいました。こちら東京では猫二匹ですが、実家である秋田のお寺では、猫八匹、犬一匹と、ペットに囲まれていますね。

司会 すごい数ですね。亡くなったペットも多いということですか。

津村 はい、今は実家のお寺の境内にペット供養塔がありますので、そこに納骨しています。それ以前は庭の二画や近くの山に埋めていました。

ペットという定義に入るのかわかりませんが、ザリガニや昆虫も埋めてきました。

司会 泉上人はいかがですか。

泉 昔、インコを飼っていました。大家さ

んから「インコに」ともらった野菜を自分が食べていた一人暮らしの大学時代の話ですけどね(笑)。

その後、捨て猫を飼いましたが、一緒に帰省したら実家のお寺で飼うことになってしまいました。以来ペットが飼えないマンション暮らしが続きましたが、およそ十年前に梅窓院の墓苑に捨てられていた猫が何匹かいて、そのうちの死にかけていた一匹を私が、一匹を梅窓院のお檀家さんが飼い始めました。

オーベル君という名前ですが、その猫が昨年秋に亡くなり、梅窓院のペット納骨供養の第一号として無礙光塔に納められています。梅窓院の墓苑で拾われた子が梅窓院に眠ることになりました。

司会 お持ちになられた写真がオーベル



今回は梅窓院の中でペット好きな三人にお集まり頂きました。

ペット納骨供養

無礙光塔納骨第一号となった泉家のペット、オーベル君の納骨供養でその流れを見てみます。

読経の前に納骨します

ペットの骨壺を席務に手渡しして無礙光塔内に納めます。



塔内には棚が設けてあります。

ご供養の読経をあげます

ペットの供養法要は梅窓院に四人いる尼僧が執り行います。



オーベル君の供養は北山彩心上人が勤められました。

塔婆と墓誌の建立

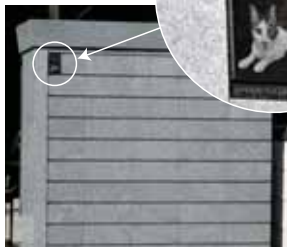
ご希望により塔婆建立、彫った墓誌を塔横の壁面にはめ込みます。



塔の左側奥に塔婆立てがあります。



塔の右側壁面に墓誌をはめ込むことができます。



泉上人の愛猫オーベル君の写真と分骨用の猫の置物。

君ですか。

泉 ええ、そしてこの猫の置物と一緒に飼いはじめたお檀家さんから贈られた置物で、分骨用の置物にしています。

司会 そうですか、兄弟猫を飼われているお檀家さんですね。いい話ですね。

皆さんにとって理想的なペットの見送り

方、そして供養の仕方をお聞かせ下さい。

森 無理なことは承知していますが、一緒のお墓の中に並んで入れれば幸せですね。

司会 今は家族同様、

梅窓院墓苑ではそれが出来ないのは残念ですが。

津村 私は僧侶であり寺院側です

から、ペットは家族同様でも人間ではな

い動物ですので、できれば、動物として尊重し、一匹一匹に墓を作ることができれば

と思います。これはあまりにも理想論ですね。

泉 私は泉家ペットの墓を泉家の墓の隣に建てるのができれば、と思います。

司会 なるほど、形態に差こそあれ、人間同様に見送り、ちゃんとお墓を作って供養したいというのが、皆さん共通の想い

ですね。

まさにペット供養の理想ですが、梅窓院の無礙光塔もそういう理想に近づくものになるのでしょうか。



執事長の泉博道上人。奥様は尼僧の一人で詠唱を担当されています。

泉 納骨供養第一号としてはとても嬉しく思っています。

津村 棚経で檀信徒さんの御宅に伺うことしばしばペットのご遺骨が祀られていることがありますが。そういう方にとって無礙光塔は理想的ではないでしょうか。同じ境内地に一緒に眠ることができると

森 昔から考えたらペットを取り巻く環境がすごく変わっています。今回の無礙光塔はそうした変化に対応したものだと思えますし、既に数十件の申し込みがあるのが、その証ではないでしょうか。

司会 なるほど、今の社会が求めている

ペット供養の一つだということですね。

墓苑部長の森 さん。

梅窓院のお墓のご案内窓口とともに無礙光塔の窓口です。

今回は梅窓院の中でもペット好きの皆さんにお集まりを頂きましたが、梅窓院内での事前のアンケートでは、現在または以前飼っていた方が75%と4人中3人でした。まったく飼ったことがない方は25%でした。飼ったことのない方の中には家族同様に呼んだりすることに違和感を覚える方もいました。ですが、無礙光塔建立はペット愛好者にとって嬉しい選択肢のひとつになったことは間違いないようで、塔の側面の墓誌がどんどん埋まっていくの

かもしれません。



墓苑部長の森 さん。梅窓院のお墓のご案内窓口とともに無礙光塔の窓口です。



法務部に在籍する津村祥徳上人。秋田九品寺出身。棚経の時にペットのお骨をたまに見ることがあるそうです。

梅窓院近辺のお店を訪れるこの「青山散歩道」。今回はオーナーが梅窓院の檀信徒というお店に伺った。

参道わきの側道をもう少し入った和食のお店で、飲食店オーナーであるとともに、亡きご主人の後継者となり、芸能プロダクションの社長も兼ねる さん。

特別にインタビューさせて頂き、魅力ある店舗作りの秘訣を教わった。

今はお店の数が増えて、飲食店とカフェそれぞれ8店舗ずつあります。

もともと飲食店のスタートは麹町に「もりもり家」というお店を出したのがきっかけで、主人（故人）が経営していた芸能プロダクションの打ち合せ場所的な役割も果たしていました。



瞳をきらきら輝せながら楽しそうに話して下さった小口文子さん。

実はこの店、恵比寿で流行っているにんにく屋さんを手本にした店だったのですが、お客さんに恵まれて二店目を神楽坂に出すことができました。それから神楽坂を拠点として現在の店舗展開が始まりました。

この青山にあるお店は、麻布十番の二店目に次ぐ「神楽坂 SHUN」の三店目ですが、そのコンセプトは創作和食です。今でこそ創作は珍しくありませんが、うちが先がけでした。私は神戸の生まれ育ち、関西ですから和食という京懐石でしたが、京懐石は高いですよ。そこで創作という言葉で冠して旬の素材を活かして手頃な価格で提供することにチャレンジしたのです。

料理は突き詰めれば、美味しいかまずいか。となると美味しいのは当たり前で、そこに何を足せるかですね。幸い夫も食べるのが好きで、一緒

にあちらこちらで外食しましたが、その経験から美味しいに、リーズナブル行き届いた接客、癒され落ち着く空間、そして感じが良い、の四つを足し算したのです。

リーズナブルは今ではコスパ（コストパフォーマンス）が良いといいますが、納得できる価格は大切です。接客に関しては、従業員の誰一人の失礼も許されません。現在、従業員が約70名、アルバイトが約200名いますが、アルバイトへの教育も徹底しています。

そして店舗の作り方。伊右衛門茶のテレビコマーシャルをイメージにして京の風情を各店に漂わせています。青山も笹を塀にし、シンプルな暖簾、暖簾をくぐると京を思わせる細長いアブローチ。玄関はもろもろ木戸です。店内も落ち着いた空間を心掛けたら、ともに灯り取りに窓も作りまし。オーナーとして結構口出します（笑）。この三つの足し算にお客様について

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○ 一片の雲なく島の冬晴るる

◎入選

○ 着ぶくれてつい心まで丸くなる

○ 紅椿仰ぐにさらす喉仏

○ 初春や新たな杖に気力添へ

○ 石路の黄や艶もつ海に向き合ひて

○ 餅いくつ寝坊の朝に母の声

○ 御巡りさんの水やりして冬すみれ

○ 鼻歌のやうな小声を冬の鹿

○ 縁側の日向に猫と干し竿と

◎選者誌

○ 雪の夜の文字盤白く野良時計

大崎 紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

日本の古い行事は多く季語になっていて、仏教行事もたくさん季語になっています。春の季語では、彼岸会、涅槃、開帳、遍路、花祭、花御堂、甘茶、鐘供養などがあります。それぞれイメージの豊かな季語ですので、春らしい明るさに満たした句ができるはずで、これらの季語を使った句に挑戦してみてください。いかがでしょうか。

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
電話03-5368-1870

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。4月9日を締切り、6月発送予定の『お盆号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

梅窓院のすぐわきの小道にある「神楽坂 SHUN 青山」。

外観は一見3階建ての住宅で隠れ家風だが、竹林や入口の暖簾が情緒あふれる京都を感じさせる。

お料理は店名〈SHUN〉の通り、全国から取り寄せられる〈旬〉の食材を使用した本格的な和食。

平日限定のランチメニューは、12品目レディース膳、本鮪井御膳、メインが選べる青山ランチ御膳。どのランチもデザート付き。夜は会席コース(4500円〜8000円)が4種。ドリンクも酒屋では販売していないお酒も味わえるそう。土日のランチは会席コース、4500円から。

内装は木を生かしたデザインになっており、照明も抑えてあるので、落ち着いた雰囲気です。食事が味わえ、会話を楽しむことができます。

個室も充実しているので、ぜひ墓参後や法要の後席などに利用してみたいかがだろうか。



上品目レディース膳(上)と本鮪井御膳(下)はともに1980円。青山ランチ御膳は2500円。

木に囲まれた和やかな室内。



カウンター席も用意されている。



営業時間／
ランチ12:00~15:00(L.O14:30)完全予約制
ディナー17:30~23:00(L.O22:00)
定休日／不定休 席数／70席
住所／東京都港区南青山2-26-9
TEL／03-3479-0770

など感じさせる魅力を作ることを心掛けてきました。百聞は一見にしかず、ぜひ青山のお店にお越し下さい。梅窓院さんのお隣ですから。

もともと母が料理好きで、その上、父も料理にはこだわりがあつて、気に入らないと卓袱台をひっくり返す人でしたから、母は父が外食で言んだ料理をそれは研究して出していました。間違はなくその血を受け継いでいます。いまでもお昼ご飯は自分で作っていて、30代の二人の子供と6歳の孫に今でも絶大な人気なのが、チャーハ

ンです。温かくても冷たくなっても美味しいですよ。

今の夢は都内に広い和のテイストのなごめるたまり場を作ることです。心と身体を癒す音楽が流れ、若者からお年寄りが一緒に集える空間を作りたいですね。

最後になりましたが、梅窓院さんの檀家になったのは平成十年に他界した父が新聞の広告で梅窓院墓苑を知っていたからです。南青山の静かな墓地、これ以上は望めない終の棲家だと思えます。



第五十四回

食は命

食養研究家
武鈴子

神経痛・関節炎 によい「うど」

野趣あふれる香り
りとほのかな苦みや
歯触りが持ち味の
うど。春を代表する
味覚。

外見ばかり大きくて役に立たないことを「うどの大木」などと揶揄されま

みれば、これは心外。役立たずどころか、私たちに大いなる効能をもたらしてくれま

は、「湿を乾かし、寒気を散らす」働きがあるとされます。寒と湿、つまり、冷えと水分の滞りは、血行をさまたげ、関節や筋肉の痛みの原因となります。うどはこれらを追いつけて血管障害や神経痛、脚気などを改善するとされます。また、病気の原因となる風邪(ふうじゃ)ウィルスを払う働きもあります。

江戸時代には、食べ物の大切さを人々に語り継ぐために日本人になじみやすい和歌という形式で教えています。江戸初期に著された『和歌食物本草』は、「この食材はこんなときには食べてはいけない」「摂り過ぎるとこんな弊害がある」などと、食べ物の効能効果を平易な和歌に詠んだものです。たとえば「うどはただ 中風脚気にたたりなし 傷寒などに少し食せよ」と詠まれ、脳卒中や脚気のと

うどは風味を生かすためにも、新鮮なものを生で食べるのが一番。酢水につけてアク抜きし、みそをつけていただきます。若芽は天ぷらやゆた、酢の物などに。むいた皮はさんぴらにして、うど特有の香りと歯触りを楽しみましょう。

行事予定

春彼岸会法要

3月21日(金)

寄席 午後1時～ 祖師堂

法要 午後2時～ 祖師堂

※詳細は3面をご覧ください。

はなまつり

4月5日(土)～8日(火)

寺院棟2階 本堂

お釈迦様の誕生日をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝下さい。



大施餓鬼会法要

5月17日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

開山忌法要・能楽奉納

6月14日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

第62回 念仏と法話の会

6月19日(木)

時間 11時20分～(受付11時より開始)

法話:「命をつなぐ」

講師 秋田教区 九品寺

津村 信徳住職

※詳細は施餓鬼号に同封致します。

発行 梅窓院
発行日 平成26年3月1日
発行人 中島 真成
編集 青山文化村
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8436
ホームページ <http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

平成26年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より平成26年度 前期 仏教講座を開講します。今年度も5名の先生をお迎えしております。どうぞお気軽にご参加下さい。 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

全講座▶午後6時～8時(受付は午後5時から) 受講料▶無料 場所▶祖師堂(地下2階)

講題/三続・お経を読む

講師/阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

- 第1回…6月 3日(火) 善導大師の『往生礼讃』より③
- 第2回…8月19日(火) 善導大師の『往生礼讃』より④
- 第3回…9月10日(水) 善導大師の『往生礼讃』より⑤

講題/釈尊の最後の教え—『仏遺教経』を読む—

講師/新井 俊定 先生(天然寺住職)

- 第1回…4月17日(木) 『仏遺教経』4
- 第2回…6月26日(木) 『仏遺教経』5
- 第3回…8月 7日(木) 『仏遺教経』6

講題/大乘仏教を読む

講師/勝崎 裕彦 先生(大正大学学長、香蓮寺住職)

- 第1回…6月12日(木) 薬王菩薩本事品第二十三の教え
- 第2回…7月31日(木) 観世音菩薩普門品第二十五の教えI
- 第3回…8月28日(木) 観世音菩薩普門品第二十五の教えII

講題/法然上人のみ教え—『選択集』を読む—

講師/林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

- 第1回…4月10日(木) 『選択集』第8章 三つの心①—至誠心—
- 第2回…5月 8日(木) 『選択集』第8章 三つの心②—深心(上)—
- 第3回…7月 4日(金) 『選択集』第8章 三つの心③—深心(下)—

講題/仏教民俗学入門(1)

講師/本林 靖久 先生(大谷大学・佛教大学 講師、真宗大谷派僧侶)

- 第1回…5月23日(金) 仏教民俗とは何か—対象と領域—
- 第2回…7月11日(金) 仏教年中行事—祈願と滅罪—
- 第3回…9月19日(金) 仏教法会—祈祷と供養—

※日時は変更となる可能性もございますので、ご了承下さい。

お檀家さんに伺いました

「家族と一緒に楽しいお十夜」

様(平成25年十夜法要にて)

お寺の近くに住んでおり、今日は孫も一緒に皆で参りました。ライブがとても楽しく、お若いご僧侶のお話も聞けてとても良かったです。お若いご僧侶や、女性のご僧侶にも会えて嬉しいです。芋煮会はアレルギー持ちで心配でしたが、出汁が何かを教えてください、安心してたっぷり頂くことができました。とても美味しかったです。いつもありがとうございます。

「心が休まります」

様(平成25年十夜法要にて)

地方に住んでいた時はなかなか来ることができませんでしたが、東京に引っ越し主人の供養のためにも足を運べるようになりました。十夜法要は2回目の参加で、今回は娘も一緒に来てよかったです。

法話は、お若いご僧侶にもかかわらずとても良いお話を伺う事ができ、感銘致しました。お寺に来ると、心が休まります。

昨年は大雨でしたが、今年は晴れて良かったです。

インタビューにご協力頂いた皆様、誠にありがとうございました!

※行事やお墓参りなどでお寺にお越し頂いた方にご感想やご意見を伺っておりますので、ご協力の程お願い致します。